

鴨居地区地域福祉保健計画 意見交換会の意見をまとめてみました。 どうぞお読み下さい！



地域福祉保健計画地区別意見交換会って？

平成17年度に作成される地域福祉保健計画を「できるだけ地域の意見を吸い上げて現実的な計画にしよう」という趣旨で11地区で開催しました。

鴨居地区はいつどこで行われたの？

平成16年7月24日(土)と8月28日(土)の2回 鴨居会館で行いました。

だれが何人集まって話し合われたの？

1回目56名、2回目43名で、地域の様々な立場の方が参加されました。

どんな話し合いがすすめられたの？

1回目は地域で困っている様々な問題、課題をあげてもらいました

2回目は1回目に出てきた問題を具体的にどんなアイデアで解決できるかを話し合いました。

1、2回とも10人程度のグループディスカッション方法でできるだけ話しやすい雰囲気、どんな意見も尊重しようというルールで行いました。

《次のように、まとめてみました。》

「
」

現状や課題



なお、紙面に限りがあるため、出された全ての意見を掲載できませんでした。ご了承下さい。



アイデア

高齢者の安否確認・閉じこもり予防について

「一人暮らしの高齢者などの安否確認ができない」

「高齢者の閉じこもりが増えている」



- 1 町会が「お助けマップ」を作成。(民生委員と自治会が中心になって)
- 2 高齢者・要援護者の調査。
- 3 老人会への加入促進。
- 4 老人パワー・良心・正しい心が世の中を浄化する。
- 5 閉じこもっている高齢者を外に誘い出す方法を考える。

地域で気軽に集まれる「居場所」について

「高齢者が気軽に集まれる場所が少ない」



- 1 オープンスペースで人の集まることのできる場所をたくさん作る。
- 2 楽しめる場所を増やす。
- 3 気軽に立ち寄れる場所をつくる。
- 4 鶴見川桜並木にくつろげるところに、5、6人ぐらいのベンチを設置する。
- 5 駅前郵便局の空いている場を借りて高齢者や幼児の集まりに活用する。
- 6 竹山生協（6丁目）の2階集会場を借りる。
- 7 ボランティアが面倒を見る。
- 8 外出のときは、高齢者は身分証明書（統一したカード）を携帯する。（持病のある人は自分のカードを提示できるキャンペーンを行なう。）

「子育てグループの活動の場や母親の交流の場がない」



- 1 気軽に集まれる場所をつくる。
- 2 子育て中の人立ち寄れる場所をつくる。
- 3 月1回家を開放して、老人または幼児と母親が集まるサテライトが数多くあると良い。

「子どもたちが外で遊んでいない」「放課後子どもたちが遊べる広々とした場所がない」「地域に子どもたち（中高生を含む）の居場所が少ない」



- 1 気軽に集まれる場所をつくる。
- 2 安全に遊びにいける場所をつくる。

「幼児から高齢者までの交流の場が少ない」



- 1 青いイスのある街・鴨居をめざす。デザインを統一して、年に2か所を目標に設置する。（あらゆる世代にメリットがある。）
- 2 休める場所を増やす。
- 3 子育てには高齢者の力が、高齢者には若い力が必要だと思うので交流の場を持つ。

ボランティア活動の活性化について

「ボランティアの高齢化と若い担い手が足りない」



- 1 回覧でボランティアを募る。
- 2 自分ができそうなボランティアを登録してもらう。(人材バンク)
- 3 福祉まつり等の各種行事で募集コーナーを設け、ボランティアの宣伝をする。
- 4 返信用はがきをつけて各戸配布する。
- 5 小中学生の親の会で参加を求める。
- 6 中学生・高校生への参加を求める。
- 7 具体的にお願ひする。(「 月 日の 行事ですが・・・」)
- 8 ちょっとしたボランティアから輪を広めていく。(ゴミ出し、お使いなど)
- 9 送迎など活動別に組織をつくる。
- 10 看護師・保育士等の経験者が活動できる方法を考える。
- 11 有資格者で働きたい人のリストなどをつくる。

「若いボランティアが育成されていない」



- 1 若者・学生などのアイデア・意見を求め、大人は口をはさまず、見守っていく。
- 2 話し合いの場を設け、活動を活発にする。
- 3 大人が学生ボランティアを指示するのではなく、学生の自主性をもっと引っ張っていくような活動形態を考える。
- 4 若いボランティアにすべての計画を任せる。

「ボランティアへ依頼したいが、遠慮してしまう」



- 1 作業内容によっては利用者の一部負担とする。(遠慮なく使えるように)
- 2 ポイント制度を導入する。(自分が困ったときにそのポイントを使用できるようにする。)

子育て支援と子どもや青少年の健全育成について

「子育て世帯へのサポートが少ない」

「青少年のマナーが悪すぎる」「夜遅くまでたむろしている」



- 1 若い親、育児中の母親への声かけを行う。
- 2 幼稚園以下の年齢層での「子ども会」をつくる。
- 3 子どもたちに地域に何を望むのかを聞く機会を設ける。
- 4 地域で青少年への声かけを活発にする。

地域のつながりについて

「近所の人顔がわからない」



- 1 隣同志が知り合う。
- 2 日ごろからあいさつを積極的にする。
- 3 4丁目のあいさつ運動をひろめる。
- 4 民生委員が周りに声かけしていく。
- 5 日ごろからの付き合いを大切にする。
- 6 子育てには高齢者の力が、高齢者には若い力が必要。交流の場を持つ。
- 7 交流の場として地域ケアプラザを利用する。
- 8 世代を問わず参加できるような魅力ある行事を企画グループで考え、企画グループも毎年交代するようにする。
- 9 地域の人を知る輪を広げることにより声かけをしやすい間柄をつくる。
- 10 井戸端会議に集合！世代を問わない集会づくり。学校等を利用して定期的に集まれるようにテーマを事前にPRする。
- 11 鶴見川をきれいにする運動を広めることによりつながりを強くする。

災害時対策について

「避難の方法がわからない」「一人では避難できない」



- 1 災害発生時には比較的元気な人が声をかけ、必要により避難誘導する。避難場所や学校への安全道路を掲示する。
- 2 あらかじめ災害時避難用マップを作成し、個別に訪問して説明する。
- 3 防災訓練には高齢者が参加できないので、若い人が積極的に参加し、災害時には高齢者を避難させられることができる体制をつくる。